



月川りき江「ユリと薔薇」  
色紙(24cmx27cm)(ちぎり絵)

<作者コメント>

初めて見た美しいピンクの百合ですが、残念なことに新聞紙では思う色が見つかりません。  
バラの花は、孫の洋服を作った時のフリルを思い出して花びらの感じを出しました。

<喜田コメント>

今回も素晴らしい作品です。鋏を使わず「ちぎる」味わいを徹底しましたね。ユリ・バラ・アンスリュウムが落ち着いた色合いのハーモニーを醸し出しています。熱帯植物のアンスリュウムの「赤」をもう少し強調したい。

黒田重雄「静物」  
F6(水彩)

<作者コメント>

ひさしぶりの「バルーン」での絵の会。皆さんと楽しく描けました。  
短時間で描くのは細部までとはいかず、全体をまとめるのが大変です。  
めりはりのついた絵になるように心がけました。

<喜田コメント>

黒田さんの強みは正確な観察力と描写力です。良く観察して描いています。特に「葉」と「ガラスの花瓶」がよいです。一方、ユリ、黄色い薔薇などはもう少し絵画的に描きたいところです。黒田さんの課題は、正確な描写は十分 OK、これを超えて「魅力的な嘘を描く」ところでしょうか。







武智康子「カサブランカの花」

F4(水彩)

<作者コメント>

写真を見てカサブランカの花に焦点を当てて描きました。  
教室でご指導いただいたことを、頭に置いて描きましたが、どうでしょうか？  
バラも難しかったです。バックも今一かなと思います。駄作で申し訳ございません。

<喜田コメント>

教室で花びらの形と色ともっと観察して存在感を出すことを指摘した。  
1 枚の花弁の中にも濃淡があり色の変化もある。よく観察して描いたと思います。同じ事が「葉」にもいえます。葉の重なりや色の違いを強調して描くともっと良いと思う。いつも苦勞する背景は黄色とブルーでうまくまとめましたね。

竹前義博「花瓶のユリ」

F6(水彩)

<作者コメント>

ここしばらくは風景画が主体でしたが、久しぶりの対面でのあとリエー丁で、花瓶の百合を描きました。自宅で風景画を描くときは、十分に時間があるので、数日かけて、考えながら描くのですが。限られた時間の中で描くのは難しい。

<喜田コメント>

一筆一筆の描きかたに味わいが出てきたと思います。欲張らず奇をてらうでもなく、素直な気持ちで描いた「良さ」がにじみ出ています。  
2 つのユリの花、どちらかに主体を置いた方が良いと思う。大きさ、濃淡、開き具合などで差をつけよう。







井上清彦 「秋を彩る花々」  
F4(水彩・パステル)

<作者コメント>

久々の「ばるーん」開催、対面による静物画でした。例によって、写実力は不足していますが、浮かんだイメージで表現してみました。

家で仕上げる際、100円ショップで買ったパステルの白を花々に、濃紺を机などに使ってみました。

新しい試みは、わくわくします。

<喜田コメント>

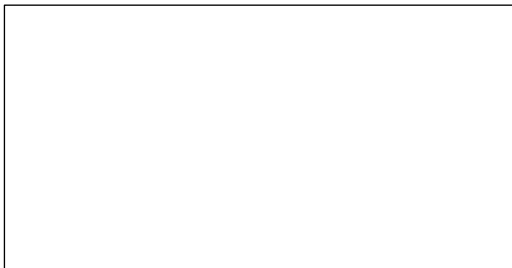
井上さんの個性が発揮された良い作品です。構図もバランスも良いです。机の濃いブルーの部分が効いています。

背景の黄色も作品を暖かくしました。

花の描きかた、濃淡や花弁の形など、ところどころ、くっきりと描くとよい。

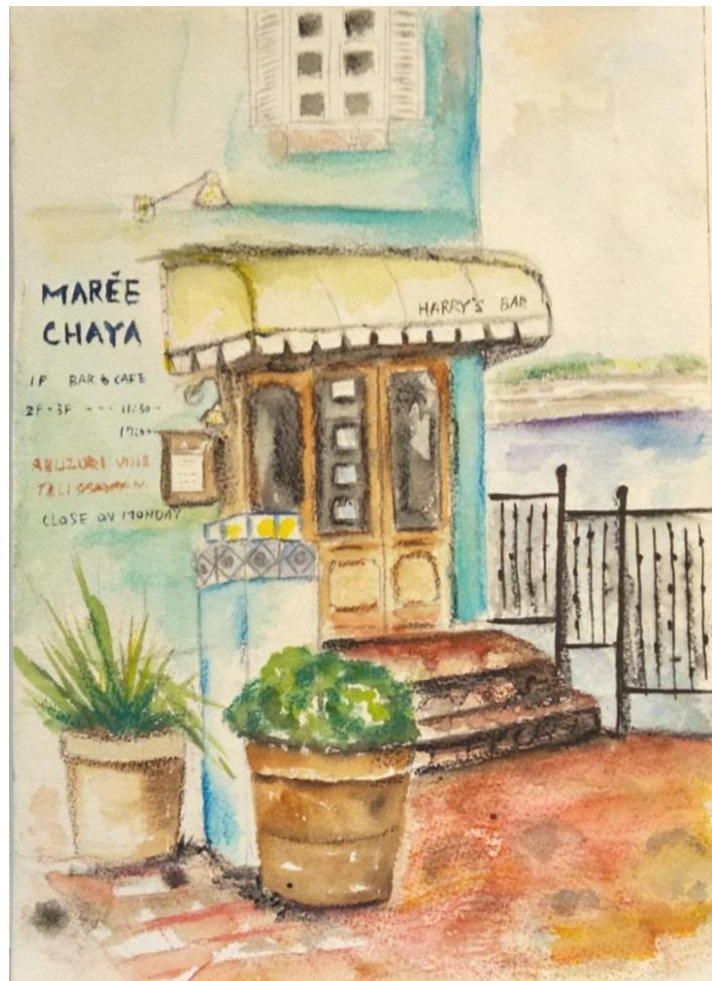
遠矢慶子  
「葉山のフレンチレストラン・  
ラマレード茶屋の玄関」  
F8(水彩)

<作者コメント>



<喜田コメント>

このようなさりげない風景画を私は好きです。遠矢さんのお宅の近くにある洒落た「フランス料理店」の玄関先。まず、色彩がきれいです。玄関右にフェンス越しに海を入れたのも素晴らしい。デッサンが正確でない事がかえって絵を面白くしています。





喜田祐三「花」

F10 (油彩)

<作者コメント>

1年ぶりに新橋「ばるーん」に集まって描いた。やはり、集まって描くのは楽しい。コロナで外出しにくくなったためか、集まったのはまだ6人だけだった。

前日、近くの花屋で賑やかな花束をモチーフのために作ってもらった。

皆さん、3時間一生懸命に「花」を描いたが時間切れ、自宅に持ち帰って完成させて写真を送ってもらうことにした。

自宅で描くのだったら私も油彩を描こうと思い立って、イメージを膨らませながら油彩を制作した。

アンスリュウムなどユニークな花が入ると絵が面白くなる。

以上